

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和2年11月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791200039		
法人名	株式会社カメラヤ・プランニング		
事業所名	グループホームつばき		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉南郡熊取町大久保東1丁目7番13号		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和2年11月19日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合 <http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町449番地の1
訪問調査日	令和 2年 9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR阪和線熊取駅から徒歩10分の閑静な住宅街にグループホームつばきがある。3階建ての建物の2階3階が当事業所で1階は高齢者専用住宅となっており、行事の時などは1階の利用者様との交流も行っている。手作りおやつや童謡の合唱など、利用者様に合わせてレクリエーションを提供している。徒歩数分の所には煉瓦館と呼ばれる交流センターがあり、利用者様は職員と一緒に桜の季節にはお花見を楽しむことや、秋のお祭りではだんじりを観ることができる。館内で催しのある期間は散歩を兼ねて参加している。また年1回ご家族様に参加頂き奥水間にある滝の湯へ食事会に行き、利用者様や職員と交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅街の中にある3階建て建物の2～3階部分となっている。秋祭りには、事業所からだんじり祭りを見学する事ができる。月2回程度、流木霊園や近郊の公園などにドライブに出かけて、季節の花を観ながら気分転換を図れるように工夫している。(今春より、新型コロナウイルスの影響により、外出はしていない。)毎月、日々の過ごし方を利用者毎に家族に郵送で報告するなど、家族にも安心してもらえるように配慮している。事業所の理念、「その人らしさを尊重して安心して暮らせるグループホーム」「地域との関わりを大切にするグループホーム」「寄り添う介護・支援の出来るグループホーム」を、常に実践するように努めている。職員は、利用者一人ひとりの思いを把握するように努め、支援に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示し、職員への周知及び理解を求め、サービスの質の向上に努めている。	理念を事務所内に掲示している。月1回の合同職員ミーティングで理念について話し合い、サービスに活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時に地域の方たちと挨拶を交わしたり、秋祭りの時は施設の敷地内から地域の方たちと一緒に見学したり、認知症カフェへやRUN友の参加で地域の方々との交流を図っている。	散歩や買い物に出かける際、地域住民と挨拶を交わせる関係作りを日常的に行っている。一昨年の台風災害時には、近隣が停電で困っている中、事業所は発電機の使用によりエアコンが使用できたため、日中の暑さをしのぐ場所として近隣住民を受け入れた。	近隣住民とは挨拶を交わすなどの関係が構築できているが、今後は、自治会行事に参加したり、事業所行事に招待したりと、地域の一員として相互に交流できる関係作りを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特には行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢介護課・地域包括担当者・地域代表者・家族様・利用者様が出席し、行事、ひやりはっと、事故報告、施設の情報提供を行い、要望意見を聞いてサービス向上に努めている。	新型コロナウイルスの影響により、令和2年3月以降は文書での開催となっている。町の担当者や地域包括担当者、地域代表者に、行事報告やヒヤリハット、事故情報などを郵送し、FAXで意見を聴収している。議事録は全職員が閲覧し、FAXで届いた意見を参考に、サービスの向上に努めている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や書類を持参した時に利用者の情報や空室状況を報告している。その他電話やFAXでの情報交換を行っている。</p>	<p>町の職員が、毎回運営推進会議に参加している。（令和2年3月以降は新型コロナウイルスの影響により文書での開催となっている。）毎月、状態に変化のあった利用者の情報や事業所の空室状況などを報告している。地域包括担当者とは、虐待ケースの対応などでも連携を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員に身体拘束マニュアルの研修を行い周知している。利用者の安全のため玄関の施錠をしている。外出希望の利用者様には職員と一緒に外出している。</p>	<p>入職時に身体拘束についての研修を行っている。事業所内に、身体拘束適正化検討委員会を設置し、身体拘束の必要が生じた際に対応方法を検討している。検討内容は全職員に周知し、やむを得ず車椅子の腰ベルトやセンサーマットを使用する際には、理由と使用期間を家族に説明の上同意を得ている。管理者は職員の不適切な言動があった際には、その場で不適切な理由を伝えて指導している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で虐待防止に関する研修を行い意識を高め防止に努めている。また虐待を発見した時はすぐに地域包括センターへ相談している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全員が学習会に参加するのは難しいため資料を回覧し、レポートを提出して学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書及び重要事項説明書においては内容を十分説明し質問や意向を聴き対応し理解して頂いた上で契約を交わし入居後にトラブルがないように努めている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に家族から意見や要望を聴く機会を設けている。また職員一人ひとりが家族様から意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りをし、サービスの向上や改善に努めている。</p>	<p>利用者や家族とは気軽に話せる雰囲気作りを心がけている。家族の来所時や電話連絡時に聴き取った意見は申し送りノートにより職員間で共有し、出来るだけ早急に対応している。これまで、夜間の面会時に駐車場から玄関までの道が暗いという意見に対して外灯を増設したり、おむつの持ち込み方法を変更するなど運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月行われるスタッフミーティングで職員の意見や提案を聞く。また企画・提案書の提出を積極的に行っている。2ヶ月に1回の福祉部会で意見を反映させている。</p>	<p>全職員が法人に対して、企画提案書をいつでも提出できる仕組みを作っている。直近では、食材に関する意見に対して、仕入れ業者を変える等の対応を行った。企画提案が通らない場合は、却下の理由を説明している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の人事考課を行っている。勤続年数や資格などの手当てを設け、職員が意欲や向上心を持って勤務できる職場作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時には入社研修を行い一年を通して社内研修と個別研修を行い意識向上に努めている。また社外での研修参加を促進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>認知症カフェへの参加などで同業者と交流する機会はあるものの、ネットワークづくりや勉強会の機会はない。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前にゆっくり時間をかけて面談を行い、生活歴や趣味などの情報把握に努め、入所後はなるべく多く声掛けを行い不安や心配事や要望・意見に傾聴し、より良く信頼関係を築いていけるように努める。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から不安なこと、要望は職員一人ひとりが周知し、随時対応させて頂いている。また入居後の利用者の様子を家族様に報告し、安心して頂けるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスがあれば家族と共に考え、ご本人や家族の要望に沿った他のサービスを紹介する。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が必要な存在であると感じて頂くため洗濯干しや洗濯たたみ等のお手伝いを役割として行って頂いている。できることをにやりがいや楽しみをもって暮らして頂けるよう支援している。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時に施設での生活の様子を伝え、情報を共有し意見を頂き、共に利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入所前から馴染みのあった場所や人と関係が途切れないように努めている。本人や家族から馴染みの場所への外出や面会の申し出がある時は応じている。	新型コロナウイルスの影響により面会や外出に制限があるが、月1回の美容室や週1回カラオケに出かけるなど、入居前からの習慣を家族と協力しながら継続できるように支援している。家族や知人からの電話を取り次いだり、手紙や年賀状を出す支援も行っている。	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの参加を促し、日々の生活の中で利用者同士が声掛け協力して過ごして頂けるよう見守り支援を行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関への転居の場合は介護サマリーなどの情報提供を行っている。入院退所となった利用者のご家族が相談や連絡しやすい関係作りを心掛けている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者の言動から思いや希望をくみ取るよう努めている。職員が聞き取った情報は個別ノートに記載している。	日頃の言動の中で意向を把握するように努めている。利用者が、それぞれ話しやすい職員が聴き取ることが多い。意思疎通が困難な利用者には、ハイカイエで回答できるように質問を工夫したり、これまでの生活歴や家族から聴き取った情報を参考に支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報を職員間で共有し、利用者一人ひとりに合わせた生活環境やケアを提供できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録表にバイタルチェックや食事・水分摂取量、排泄表の記録を行い現状の把握に努めている。また訪問診療時の様子が職員間で共有できるように往診ノートに内容を記録している。	

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>状態の変化がみられたり困難な問題が発生した時は早急にケアカンファレンスを行い、家族と連絡をとり、現状に即したケアができるように計画の見直しをしている。</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の心身の状況に変化があった際には、その都度見直しを行っている。介護計画は、事前に主治医や歯科医などの支援関係者と家族から意見を聴き取り、内容を反映している。面会時に家族に内容を説明し、手渡している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者様の日々の様子や気づきを個別ノートや業務日誌に記入し職員間で申し送りをし、情報を共有しより良いケアができるように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>就寝時間や入浴時間など利用者様の体調やリズムに合わせてできる限り答えるように取り組んでいる。また急な外出の希望にも柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>協働していない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近隣の内科の訪問診療を受けている。入所前に受診について本人や家族の希望を聞きとっており、従来のかかりつけ医を受診されたり、他科受診は希望された所に受診される。</p>	<p>受診の利便性を考慮して、ほとんどの利用者が往診医へと変更している。家族の付き添いで、これまでのかかりつけ医を受診している利用者もいる。家族が付き添えない時は、職員が同行している。受診結果は、変化があった際には家族へ電話で報告している他、記録により、職員間でも共有している。</p>	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護が週1回の定期訪問看護で日常の体調の変化を報告し健康管理に努めている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に施設での生活の状況や認知症状などを記載した介護サマリーを提供する。入院中に家族様を通じて病院側の治療方針の連絡を受けている。また入院中も面会に行き、看護師と情報交換を行っている。		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針を十分説明している。利用者様の体調の悪化など状態に変化があった場合は家族様に報告し話し合いを行っている。	入居時に終末期の対応を説明し、重度化や急変時についての意思確認書に署名をもらっている。利用者や家族は、いつでも内容を変更することができることを説明している。看取りは、現在のところ行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の指導のもとで昼夜の避難訓練を行っている。災害時用に備蓄品3日分を常備している。	消防署立会いの下、夜間想定を含めて、年2回避難訓練を行っている。自動火災報知設備の使い方や緊急連絡網などを全職員に周知している。約3日分の食料と、ランタン、紙皿などをユニット毎に備蓄している。災害時の地域との協力体制は、現在のところ話し合っていない。	事業所内では災害に関する訓練を定期的に行っているが、地域とも相互に協力できるような体制を構築することを期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシー保護について社内研修を行っており、職員も利用者様の誇りやプライバシーを損なわない様に意識し、利用者様一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に努めている。	年1回、個人情報とプライバシーに関する研修を行っている。日頃の会話や支援の声かけは、自尊心に配慮して行っている。不適切な言動には、その場で管理者が指導している。個人情報を含む書類は、鍵付書庫にて保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でその都度希望や思いを受け止め自己決定できるように支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で個々の希望に沿う事は難しい時もありますが、できる限り本人のペースに合わせ満足して頂けるように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った利用者様の好きな服を職員と一緒に選んで頂いている。月に1回の訪問理容の際も利用者様の希望を聞いて散髪して頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりに合わせた食事形態や分量で提供している。また個人の能力に合わせて食事前のテーブル拭きなどできることをお手伝いして頂いている。また毎年、家族や職員と一緒に外食レクリエーションでいつもと違う雰囲気を楽しめる機会を設けている。	法人の給食センターで調理した副食を、職員と利用者で盛り付けている。ご飯とみそ汁は事業所で作っている。敬老の日や節句には行事のお膳、土用のウナギ、夏野菜カレーなど季節を感じるメニューを毎月提供している。配膳や下膳、洗い物などは、能力に応じて、職員と利用者と一緒にしている。月に1~2回、利用者から希望を聴いて、たこ焼きやパフェなどのおやつと一緒に作って食べている。外食は、新型コロナウイルスの影響により実施できていない。

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時ごとに食事量、水分摂取量を記録している。給食センターでバランスを考えたメニューや糖尿食や減塩食の提供も行い個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。週1回歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で利用者様それぞれの排泄パターンを把握しトイレ誘導の声掛けをさせて頂いている。できる限りトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導を行っている。夜間の排泄支援は、睡眠の妨げにならないように配慮してパット交換などを行っている。心身の状態により、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。	

44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い便秘がちな方に対しては水分補給を促し、医師や看護師の相談のもと緩下剤を服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調や希望を考慮して週2～3回の入浴を行っている。また便失禁などあった場合は清潔保持のため、その都度シャワー浴を行っている。できる限りプライバシーに配慮して、入浴の時間は利用者様に楽しんで頂けるように支援している。	全利用者が週2～3回入浴できるように支援している。湯はかけ流しで、個別に好みの入浴剤を使用するなど、寛いで入浴できるように支援している。季節に応じて脱衣所に、扇風機やヒーターを設置している。	

46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床、消灯時間は決まっているが、その日によって好きなテレビ番組などがある日などはいつもより長く起きていたり、利用者様のペースに合わせてお休み頂けるように支援している。また使い慣れた寝具を使用して頂き安眠して頂けるよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のカルテに薬剤情報を綴っており、全職員が閲覧確認し理解している。薬の変更や臨時薬が処方された場合は申し送りを行い職員全員が把握できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物干し、洗濯物たたみや花の水やり、食器拭き等、利用者様のできる事を無理のないようにして頂けるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望に沿って日常的な外出はできませんが、近隣の散歩や秋祭り、お花見などの行事や、家族様との外出を支援している。</p>	<p>月2回程度、阪南バラ園や流木霊園など季節の花が咲いている場所にドライブに出かけている。近隣の公園の池で鯉に餌やりをしたり、スーパーマーケットに手作りおやつ食材を買いに出かけている。 (現在は、新型コロナウイルスの影響により実施できていない。)</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族様よりお小遣いを預かり管理させて頂いている。利用者様の希望や必要に応じて出金させて頂いている。</p>		

51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>施設では利用者が施設の電話で家族に電話をかけることはできませんが、職員がかわりに用件を伝えたり家族様からの電話や手紙の取次を行っている。また本人が書いた年賀状を家族に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は毎日掃除を行い、天候や時間帯に合わせて空調光・テレビや音楽の音量調節に配慮している。各テーブルには、施設の庭で咲いている季節の花を飾り、和むスペース作りを心掛けている。また利用者様が製作した季節の壁飾りやレクリエーションやドライブに行った時の写真を飾っている。</p>	<p>居間兼食堂の壁面に、利用者が作った季節に応じたちぎり絵などの作品や、外出時の写真が飾ってある。居間兼食堂では、利用者の好みの音楽をかけ、歌詞カードを見ながら歌うこともある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室やリビングのソファ・テラス等自由にくつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者や家族の希望に合わせた家具を入れて頂き、思い出の物品や写真を飾り心が落ち着く環境作りをしている。また安全に配慮して家具の配置に工夫している。</p>	<p>エアコン、洗面台、ベッド、カーテンが備え付けてある。利用者は、使い慣れた家具や寝具、テレビなどを持ち込んでいる。家具等は、利用者や家族とも相談し、利用者の安全を最優先に考えて配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内、トイレ、浴室には安全面に配慮して手すりを設置している。職員が見守りを行いながら利用者様個々の身体状況に合わせて安全で自立した生活が送れるように支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示し、職員への周知及び理解を求め、サービスの質の向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時に地域の方たちと挨拶を交わしたり、秋祭りの時は施設の敷地内から地域の方たちと一緒に見学したり、認知症カフェへやRUN友の参加で地域の方々との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特には行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢介護課・地域包括担当者・地域代表者・家族様・利用者様が出席し、行事、ひやりはっと、事故報告、施設の情報提供を行い、要望意見を聞いてサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や書類を持参した時に利用者の情報や空室状況を報告している。その他電話やFAXでの情報交換を行っている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員に身体拘束マニュアルの研修を行い周知している。利用者の安全のため玄関の施錠をしている。外出希望の利用者様には職員と一緒に外出している。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で虐待防止に関する研修を行い意識を高め防止に努めている。また虐待を発見した時はすぐに地域包括センターへ相談している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全員が学習会に参加するのは難しいため資料を回覧し、レポートを提出して学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書及び重要事項説明書においては内容を十分説明し質問や意向を聴き対応し理解して頂いた上で契約を交わし入居後にトラブルがないように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に家族から意見や要望を聴く機会を設けている。また職員一人ひとりが家族様から意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りをし、サービスの向上や改善に努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月行われるスタッフミーティングで職員の意見や提案を聞く。また企画・提案書の提出を積極的に行っている。2ヶ月に1回の福祉部会で意見を反映させている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の人事考課を行っている。勤続年数や資格などの手当てを設け、職員が意欲や向上心を持って勤務できる職場作りに努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時には入社研修を行い一年を通して社内研修と個別研修を行い意識向上に努めている。また社外での研修参加を促進している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>認知症カフェへの参加などで同業者と交流する機会はあるものの、ネットワークづくりや勉強会の機会はない。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する前にゆっくり時間をかけて面談を行い、生活歴や趣味などの情報把握に努め、入所後はなるべく多く声掛けを行い不安や心配事や要望・意見に傾聴し、より良く信頼関係を築いていけるように努める。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族から不安なこと、要望は職員一人ひとりが周知し、随時対応させて頂いている。また入居後の利用者の様子を家族様に報告し、安心して頂けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスがあれば家族と共に考え、ご本人や家族の要望に沿った他のサービスを紹介する。</p>		

18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が必要な存在であると感じて頂くため洗濯干しや洗濯たたみ等のお手伝いを役割として行って頂いている。できることをにやりがいや楽しみをもって暮らして頂けるよう支援している。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が面会に来られた時に施設での生活の様子を伝え、情報を共有し意見を頂き、共に利用者様を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者が入所以前から馴染みのあった場所や人と関係が途切れないように努めている。本人や家族から馴染みの場所への外出や面会の申し出がある時は応じている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションの参加を促し、日々の生活の中で利用者同士が声掛け協力して過ごして頂けるよう見守り支援を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設や医療機関への転居の場合は介護サマリーなどの情報提供を行っている。入院退所となった利用者のご家族が相談や連絡しやすい関係作りを心掛けている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者の言動から思いや希望をくみ取れるよう努めている。職員が聞き取った情報は個別ノートに記載している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報を職員間で共有し、利用者一人ひとりに合わせた生活環境やケアを提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録表にバイタルチェックや食事・水分摂取量、排泄表の記録を行い現状の把握に努めている。また訪問診療時の様子が職員間で共有できるように往診ノートに内容を記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化がみられたり困難な問題が発生した時は早急にケアカンファレンスを行い、家族と連絡をとり、現状に即したケアができるように計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子や気づきを個別ノートや業務日誌に記入し職員間で申し送りをし、情報を共有しより良いケアができるように努めている。		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>就寝時間や入浴時間など利用者様の体調やリズムに合わせてできる限り答えるように取り組んでいる。また急な外出の希望にも柔軟に対応している。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>協働していない。</p>		
30 11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近隣の内科の訪問診療を受けている。入所前に受診について本人や家族の希望を聞きとっており、従来のかかりつけ医を受診されたり、他科受診は希望された所に受診される。</p>		
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護が週1回の定期訪問看護で日常の体調の変化を報告し健康管理に努めている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に施設での生活の状況や認知症状態などを記載した介護サマリーを提供する。入院中に家族様を通じて病院側の治療方針の連絡を受けている。また入院中も面会に行き、看護師と情報交換を行っている。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化や終末期に向けた方針を十分説明している。利用者様の体調の悪化など状態に変化があった場合は家族様に報告し話し合いを行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回消防署の指導のもとで昼夜の避難訓練を行っている。災害時用に備蓄品3日分を常備している。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報やプライバシー保護について社内研修を行っており、職員も利用者様の誇りやプライバシーを損なわない様に意識し、利用者様一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に努めている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中でその都度希望や思いを受け止め自己決定できるように支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活の中で個々の希望に沿う事は難しい時もありますが、できる限り本人のペースに合わせ満足して頂けるように心掛けている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節に合った利用者様の好きな服を職員と一緒に選んで頂いている。月に1回の訪問理容の際も利用者様の希望を聞いて散髪して頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様一人ひとりに合わせた食事形態や分量で提供している。また個人の能力に合わせて食事前のテーブル拭きなどできることをお手伝いして頂いている。また毎年、家族や職員と一緒に外食レクリエーションでいつもと違う雰囲気ですごす機会を設けている。</p>		

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時ごとに食事量、水分摂取量を記録している。給食センターでバランスを考えたメニューや糖尿食や減塩食の提供も行い個々に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に利用者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。週1回歯科衛生士による口腔ケアも実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で利用者様それぞれの排泄パターンを把握しトイレ誘導の声掛けをさせて頂いている。できる限りトイレでの排泄が出来るように支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックを行い便秘がちな方に対しては水分補給を促し、医師や看護師の相談のもと緩下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者様の体調や希望を考慮して週2～3回の入浴を行っている。また便失禁などあった場合は清潔保持のため、その都度シャワー浴を行っている。できる限りプライバシーに配慮して、入浴の時間は利用者様に楽しんで頂けるように支援している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床、消灯時間は決まっているが、その日によって好きなテレビ番組などがある日などはいつもより長く起きていたり、利用者様のペースに合わせてお休み頂けるように支援している。また使い慣れた寝具を使用して頂き安眠して頂けるよう配慮している。</p>		

47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のカルテに薬剤情報を綴っており、全職員が閲覧確認し理解している。薬の変更や臨時薬が処方された場合は申し送りを行い職員全員が把握できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物干し、洗濯物たたみや花の水やり、食器拭き等、利用者様のできる事を無理のないようにして頂けるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望に沿って日常的な外出はできませんが、近隣の散歩や秋祭り、お花見などの行事や、家族様との外出を支援している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族様よりお小遣いを預かり管理させて頂いている。利用者様の希望や必要に応じて出金させて頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>施設では利用者が施設の電話で家族に電話をかけることはできませんが、職員がかわりに用件を伝えたり家族様からの電話や手紙の取次を行っている。また本人が書いた年賀状を家族に送っている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は毎日掃除を行い、天候や時間帯に合わせて空調光・テレビや音楽の音量調節に配慮している。各テーブルには、施設の庭で咲いている季節の花を飾り、和むスペース作りを心掛けている。また利用者様が製作した季節の壁飾りやレクリエーションやドライブに行った時の写真を飾っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室やリビングのソファ・テラス等自由にくつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者や家族の希望に合わせた家具を入れて頂き、思い出の物品や写真を飾り心が落ち着く環境作りをしている。また安全に配慮して家具の配置に工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内、トイレ、浴室には安全面に配慮して手すりを設置している。職員が見守りを行いながら利用者様個々の身体状況に合わせて安全で自立した生活が送れるように支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある
			②数日に1回ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない